

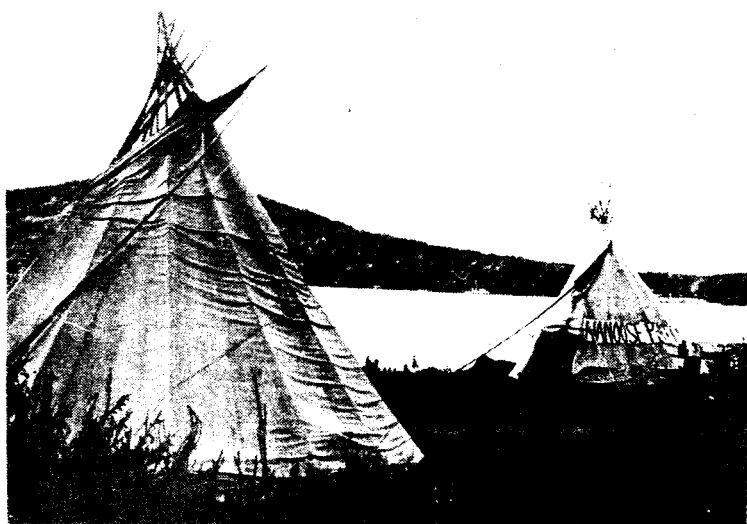
月刊反トマホーク通信

No. 17
1987. 3. 20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 バル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095

INTERNATIONAL DISARM THE SEAS WEEKEND

★5/29
~31



ナヌースのティピー

カナダ西海岸のナヌース湾。ここには米海軍の潜水艦の訓練基地があつて魚雷やミサイルのテストがくりかえされている。平和運動の人々は海辺にこんなティピー（アメリカ先住民の円錐形のテント）を立てて、監視と抗議を続けた。その後、ティピーは強制撤去されてしまったけれどジャンク（小舟）を浮かべたり、今では小さな家まで持って人々の抗議は続いている。

海の軍備撤廃のための国際共同行動
どこかで、いたる所で...

Here, There and Everywhere

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間2000円

あなたも仲間！

3/6 アタシヨンボートニ定島へ

三月六日夜、アメリカの空母艦載機の夜間演習基地に島ぐるみで反対している三宅島にむかって、アタシヨン・ボートが出航。赤ん坊からおじいちゃん、おばあちゃんまで三三〇余の参加者と、反対する会との交流会が開かれた。厚木基地の代替候補のひとつである下総基地周辺の住民が「もう三宅島に決まった、と反対運動も縮小済み」と発言。三浦会長は「よそで要らないものは、三宅島でもない」ときっぱり。

港をあらう波に帰りの船は欠航というハアニングも、北海道から大阪まで各地からの参加者には交流のチャンス。見るものを圧する噴火跡、雄山登山、岬めぐり、三宅島の緑と自然を楽しむことになった。島をめぐる立看板のひとつ「三宅島の自然を子孫にのこそう！」を肌でもって実感する時でもあった。いろいろな思いを、三宅島につないで帰った三三〇人。小さいが、そのひとつひとつの声が全国に響くことになるだろう。

3/核も原発もない太平洋を

三月一日、東京で「核も原発もない太平洋を！ 三・一東京集会」が開かれた。呼びかけは日本カトリック正義と平和協議会、婦人民主クラブ、ブルトニウム研究会、反核パシフィックセンター東京の四者。約三百人が参加した。

ビキニの水爆実験で被爆したロンゲラップ島民の被害を描いた映画「ハーフライフ」上



映の後、軍事評論家の前田哲男さん、画家の丸木俊さんなどが発言にたった。前田さんは「米核戦略の一端をになう日本が、太平洋民衆に押しつける核と軍事と原爆政策に対し、日本の民衆がその政策をただし、民衆自身が真の海洋文化と自由を認識すべき」と訴えた。反核パシフィックセンター東京からは、ベラウ自由連合協定をめぐる最近の動向につい



て、また沖縄研究会からは、県収容委の米軍用地十年強制使用決定についての報告がされた。

反原発運動からの行動提起では、三・二八のスリーマイル島原発事故八周年、四・二六チエルノブイリ事故一周年行動が呼びかけられた。

この日の集会アピールは次のように強調し

3/非核コード(案)が出ました

二月二十六日、横浜で第二回「いのちとくらしを守る県民の集い」が開催され、「非核コード(案)」が発表された。この集会を主催したのは県下の労働組合、市民住民団体で作る「県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会(通称「いのくら」)」と「87国民春闘神奈川共闘会議」。今回は「非核県宣言をよりたしかなものにするために」をテーマに開催された。

「いのくら」では昨年の秋以来、「基地分科会」の中に研究会が置かれ、コード作りの作業が続けられてきた。これには非核市民宣言運動ヨコスカ、上瀬谷基地はいらないウドの会、生活クラブ生協、「全国運動」の梅林さんも加わり精力的に検討を進めた。

ている。

「三十四基もの原発を動かし、米国の核軍拡に歩調を合わせる日本政府。その日本に住むものとして、私たちは、海にも大地にも核を捨てさせない、原発をとめ脱原発を目指す、そして核も原発もない太平洋をつくりだすために力を合わせた」。

まずはターゲットを核トマホークにしぼり、米議会証言、高官談話など一三項目におよぶチェック・リストを作成、これを市民の判断基準、行動基準とすると同時に自治体に対し「核持込み」の既成事実化に歯止めをかけ、「非核」を本物にしようとの狙いだ。

集会では、トマホーク艦入港時の市民団体と県当局のやりとりを再現した寸劇が現状をくつきりと浮び上らせた。さらに、「ニュージャーシー」をマナ板にのせて、「採点」の実演。反核運動の今後を巡るパネルディスカッションが行われた。

「コード」を本場に有効に使うことのできる様な人々の熱気を作り出したいと思う。

非核(トマホーク)コード									
このコードの●印はトマホークのみ表示するため、空母艦載機の核弾頭(艦載機リストから除外)、水上艦艇の巡航ミサイル(対潜ミサイル)、攻撃型潜水艦のサブロック(対潜ミサイル)などは表示しません。●印は注記がいます。									
判断情報の対象									
判断情報事項									
対象艦艇									
名・カウ									
公 式 情 報									
公 式 外 情 報									
判 断 ・ そ し て 行 動 !									
艦名	艦種	艦番号	所属	建造年	建造所	排水量	最高速	航続距離	搭載兵器
アイアム	SSB	592	NEW JERSEY	1962	ニューージャージー	380	28	1000	ミサイル
ミシシッピ	SSB	593	MISSOURI	1962	ミズーリ	380	28	1000	ミサイル
ペンシルベニア	SSB	594	PENNSYLVANIA	1962	ペンシルベニア	380	28	1000	ミサイル
インディペンデンス	SSB	595	INDEPENDENCE	1962	インディペンデンス	380	28	1000	ミサイル
ヴィンセント	SSB	596	VINCENNES	1962	ヴィンセント	380	28	1000	ミサイル
トーマス・S・ゲイツ	SSB	597	THOMAS S. GATES	1962	トーマス・S・ゲイツ	380	28	1000	ミサイル
ブロンク・ヒル	SSB	598	BUNKER HILL	1962	ブロンク・ヒル	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	599	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	600	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	601	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	602	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	603	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	604	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	605	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	606	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	607	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	608	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	609	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	610	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	611	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	612	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	613	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	614	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	615	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	616	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	617	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	618	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	619	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル
リージョン	SSB	620	REGION	1962	リージョン	380	28	1000	ミサイル

各地から

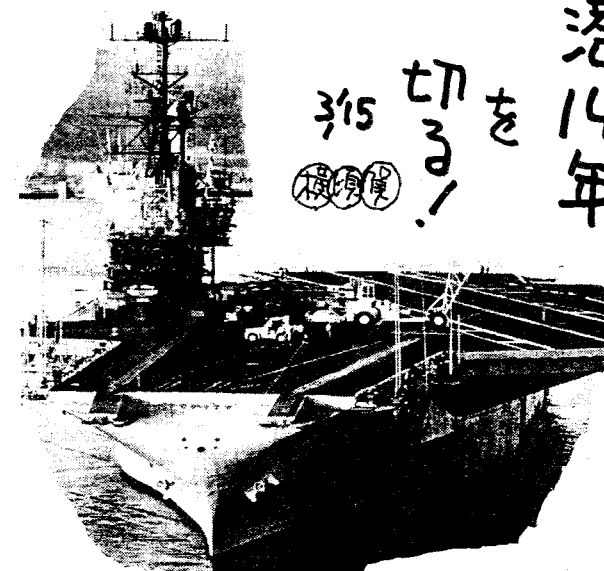
ミッドウェー母港14年

三月十五日、横須賀で「ミッドウェー母港十四年を切る！」と題したシンポジウムが開かれた。一九七三年十月の母港化から十四年、米空母ミッドウェーは昨年八カ月に及ぶ大改装工事を施され、二世紀初頭まで使用可能とされている。ミッドウェー母港化は横須賀に何をもたらしたのか、ミッドウェーはいまどのような役割を果たしているのか。こうしたことを改めて問いなおす意味をもって、このシンポジウムは企画された。

ミッドウェーの新艦載機のスライドが映しだされた後、四つの報告が行われた。

最初に反軍調査協議会の鈴木しげきさんから、母港化以後のミッドウェーの動きが細かく紹介される。ベトナム、朝鮮、西太平洋からインド洋へ。ミッドウェーの航跡は、アジアの民衆に銃口をつきつけるアメリカ軍の姿を浮き彫りにするものだ。

平和事務所の進藤さんからは、改装後のミッドウェーの軍事的能力、役割を中心にしたレポートが、非核市民宣言運動の鈴木良さんからは、ミッドウェーの改修工事とアスベスト投棄問題が、また広沢さんからは、かつて



を切る！
3/15 横須賀

の反戦米兵運動についての報告がそれぞれ提起された。

討論の中では、住友重工の首切り合理化と米艦船の修理能力を維持することとの関連、矛盾など興味深い問題が話し合われた。

「基地の町」の日常の中で、ミッドウェー母港の重みを不断に意識化していく作業は大変なことだが、あらためてこの現実を喰らいついていくことの必要性を実感させる集会であった。

短信

「横浜」 上瀬谷基地はいらないウドの会は五月二十九あるいは三〇日から三一日にかけて「カミセヤ・ヨコスカ・ピースウォーク（仮称）」を計画している。上瀬谷通信基地から深谷通信基地、逗子を経て横須賀まで「通信基地反対」「核艦船入港拒否」「スパイ防止法反対」を訴えて歩く。「国際共同行動」にも連なる行動でもある。いっしょに歩こう！（連絡先〇四五―三六三―一一一―内線四二五 富永気付ウドの会）

東京都府県ばかりの各地からいっしょに歩きたい。お便り、主張、呼びかけお待ちしています。

沖縄軍用地20年強制使用反対

沖縄には「命どう宝」(命こそ宝)という反戦の思想がある。そして自らの土地を戦争のため、人殺しのためには使わせないと、軍用地提供の契約を拒否している「反戦地主」がいる。

沖縄一坪反戦地主会は、基地の中に囲われている反戦地主の土地を取りもどし、「生活と生産の場へ」変えてゆこうという運動です。沖縄軍用地の20年強制使用―安保体制の固定化に反対して、多くのみなさんの反戦地主への連帯を訴えます。

命どう宝
強制使用許さず

※一坪反戦地主募集中です。

問合せ 沖縄一坪反戦地主会関東ブロック
連絡先 東京都北区上十島3-29-1 大樹マンション 03-905-1579(休曜)

海は人間を結んだ

太平洋運動コーディネーティング会議

(1・31↓2・5)

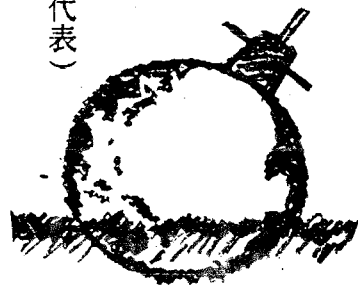
梅林宏道(反トマ全国運動代表)

一月三十一日から二月五日まで、東京の早稲田奉仕園で行われた「海の軍備撤廃を！太平洋運動」のコーディネーティング会議。その中間にオーブン・フォーラムとして開催された反核国際シンポジウム「人間の鎖は大平より大きい」。そして一息つくまもなく、二月一日から二月二十五日までカナダ西海岸での講演と交流の旅。その間、二月一日から一日の週末には、バンクーバーで「非核独立太平洋ネットワーク(カナダ)」の年次会議に参加。熱気と興奮につつまれて一ヶ月を駆け抜けた感じだった。日本の軍拡と反核・反基地運動を日本を離れて太平洋から見直す貴重な一ヶ月でもあった。限られた紙数でとりあえずカナダ旅行の部分は別の機会に譲らざるをえない。

◆1月31日 この日までに太平洋運動のコーディネーティング会議(構成員7人)のほぼ全員が東京に到着した。いつものことながら、忙しい日程をやりくりして実現する活動家たちの国際会議。安い切符を手に入れること、せっかくの旅の日程をできる限り有効に使うこと、緊張に満ちたシャキッと背筋がのびるような集合ぶりだった。そのくせみんな優しく、和やかである。国際コーディネーターであるネルソン・フォスター(ハワイ)の人柄がこの気風を生み出している。2月2日に新憲法の国民投票をひかえたフィリピンのエルモ・マナバットは、二日前にやっと来日の最終決断を下したという。カナダのフィル・エスモンドは、リュックを背負い、太平洋の島々を巡って出席。直前にバブア・ニューギニアを訪問したオーストラリアのニック・マ



ネルソン・フォスター



クレランは一日遅れて到着することになった。反トマ運動からは呉から湯浅一郎さんが到着した。この日は明日からの会議の議題と日程の最終調整を行い、その後、個人史の紹介に質疑応答をまじえながら相当時間を費やした。太平洋を隔てて集まった文化の異なる人々が、よく知合い、共通の運動戦略を語り合う前提となる作業であった。



◆2月1日 この日のシンポジウムの概要は前号の反トマ通信に報告された。とかく権威主義的なしきいの高さを感じさせがちな国際会議のあり方を克服しようと準備されたシンポジウムである。平和事務所の山下史さんが、「みんなが同じ目の高さをもっている感じがとても良かった」と一人の参加者の感想を伝えてくれたのが嬉しかった。内容的には、アメリカ国内で海軍の大増強計画の中で進められている母港分散計画が多く、港に抵抗運動に会い挫折を強いられていること、今年九月に予定されるニュージーランドの国政選挙で、核艦拒否を貫くロンギ労働党政権を追落そう



フィル・エスモンド (カナダ: 大ビクトリア軍艦拒否グループ)

と少数先住民民族マオリ族への融資をめぐるスキャンダルがCIAによりしかけられ社会不安を生みつつあること、南太平洋の島々では核や軍事に関する情報が乏しく、まず何よりも情報についての国際的な支援が必要であること、などの報告が印象に残った。



エルモ・マナバット (フィリピン: 非核フィリピン連合事務局長)

◆2月2日 この日から本格的な合宿会議が始まった。二段ベッドが四台ある部屋に泊まりこみ、同じ部屋にあるテーブルを囲んで会議。休みを充分とりながら会議をすすめようとの申し合せがあったが、会議に熱中するそうはゆかなかった。午前9時から夜の11時頃まで会議は続いた。

午前中はあらかじめ準備しておいた国際電話会議。ワシントンからウィリアム・アーキンが太平洋の全体状況認識を電話で報告。スビーカー・ホーンを通して質疑応答した。ウィリアム・アーキンの報告は現在テーブル起こしを依頼しているが「日本のアメリカ戦略への参画の内部情報が不足している」という指



リニー・ウェストラ (ニュージーランド: 平和をめざすキリスト者前議長)

摘が印象的だった。また、グリーンピースが「海の軍備撤廃」をテーマにキャンペーンにのり出したことを知った。アーキンに続いて、ニュージーランドのオーエン・ウィルクスが電話に登場、マオリ・スキャンダルをめぐるCIA工作が太平洋全体に持っている意味を強調した。日本のえびの通信基地のことを質問したが、人吉市のP・マッカーティン牧師との長い電話のことを紹介していた。

スビーカー・ホーンを使っている国際電話会議は、時差を計算しながらセットした初めての試みだったが、大成功。国内の会議にも応用できそうである。

その後の議題は、「一九八六年の太平洋運動の評価」「運動をとりまく状況の変化」「ラロトンガ条約、太平洋の冷戦構造、日本の軍事化、東のNATOと日米韓一体化、トラIDENT II、ソ連の海洋発射巡航ミサイル、SDI関連など」

◆2月3日 議題は「海の軍備撤廃を！太平洋運動と他の国際運動との関連」、「各国の運動状況とくに太平洋運動がどのように役立っているか」「太平洋運動の運営についての評価」。

◆2月4日 議題は「運営についての役割分担」(ここでは、日本がコーディネイティング会議の書記局を分担すること、引続き梅林が議長をつとめること、を引受けた)。この日の午後は自由時間で、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー、カナダの代表は横須賀基地を見学した。夜には、いよいよ「87年以降の運動戦略」協議を開始。



ニック・マクレラン (オーストラリア: 非核独立太平洋運動)

◆2月5日 昨日からの議論をひきつぎながら「87年の行動計画」「出版計画」「財政」を議論。

運動戦略の議論については、その基本的な考え方をぜひ紹介しておきたい。私たちはビッグ・ピクチャーを描いた。つまり太平洋全体で何が起きているか。米ソ中日支配層の



ジュディス・デナーロ (フィジー: フィジー反核グループ)

政治的連関について意見をかわした。しかし、その結果、各国で出現している状況は多様である。それぞれの国の政治文脈と密接に絡んでおり、太平洋の問題がそのまま姿を現すわけではない。その上、運動戦略を論ずる時には各国の運動の歴史的経緯や運動構造抜きに戦略論議をしても空論になるだろう。また一方で、一般的な連帯の確認やエールの交換の国際連帯の時代はすぎた。太平洋運動の協力がより強力な役割をはたす道は何か。この課題に挑戦するために私たちは集中合宿を行った。とりあえず確認できたことは各国の運動にできるだけ立脚した戦略を立てることであつた。

模索は続いている。しかし、この立場に立ち切って議論が開始されたことの意義はとても大きいと思う。

議論は、全体として必要なことは何か、それぞれの国が現在最も必要としている支援は

何か、を出し会う形をとった。全体としては、△軍艦寄港拒否運動がほとんどの国で政治問題化しており、この運動の流れを強めること。△できるだけリアル・タイムの情報交換を前進させることが協力の実をあげることに例として、86リムバックでは日本の新聞が最初にイギリス艦隊の参加を報じ、遅かったが私たちからの情報が太平洋運動を通してイギリスの運動に伝わり、運動がつくられた。△全体にかかわる基本問題の特別レポートを出版すること(その中にはソ連の太平洋進出の実態、日本の軍拡、日本の非核自治体と核艦船寄港問題などがふくまれている)。△それぞれの国の運動を前進させるのに適切な人的交流をはかること(前回の会議で太平洋反核ポット会議が提案されていたが、現段階では人的交流の方が有効と判断しポット会議は中止となった。日本の軍事化と平和運動の対応については、日本の軍事化と平和運動の対応について語る講師の派遣、オーストラリアの女性上院議員ジョー・バレンタインの来日、平和船団関係者の来日などが課題となった)。

食事時間に早稲田界隈を安くうまい食堂を見付けて歩き回った。節分の豆まきをした。面白い話はいろいろあるが紙面がない。会議を終えて、何か新しい仕事をやり終えたという充足感があった。本当は、何か新しいことが始まったのだ。

「核の影」漂う大演習



C141が緊急着陸? 消防車が滑走路へ急行
—米軍横田基地で—

自衛隊機も次々

辺は、東京のベッドタウン。一帯は、米軍基地の影に覆われている。ここ、横田基地。米軍の演習が、ここから始まる。自衛隊機も次々、この基地に到着する。米軍の演習は、ここから始まる。自衛隊機も次々、この基地に到着する。米軍の演習は、ここから始まる。自衛隊機も次々、この基地に到着する。

核司令機飛来 弾薬庫に危険No.1表示

地帯に飛来した核司令機。この基地は、米軍の演習が、ここから始まる。自衛隊機も次々、この基地に到着する。米軍の演習は、ここから始まる。自衛隊機も次々、この基地に到着する。

横田基地緊迫

米韓チームスピリット87、今月下旬からピーク

する意味のようなものが、いくらかでも私の問題意識にしみこんだとすれば、それが最大の成果だったかもしれない。具としても各国の運動への窓口が直接的なものになったこと

も、今後への大きな財産になるだろうと思う。ニュージーランドの秋の総選挙に向け、日本からニュージーランドのマスコミに対し、非核政策の支持と継続を求める手紙を出すこと

とをリニエ氏と約束した。そうした具体的かわりを通して、五月の共同行動だけでない実のある連携をとっていきけるようにしたいと思っている。

二月二日午前中は、国際電話を使って、電話での会議がウィリアム・アーキン（ワシントン）に続いて、初めに出会ったメンバーが多く、各国の反核運動の状況を、かなり系統的に紹介しあうセッションがじっくり持たれたことである。それぞれの国の事情を、運動面での悩みも含めて、たっぷり聞くことができたことは収穫であった。

一週間ほど前、呉の海上自衛隊基地をリニエ氏（ニュージーランド）と見たときのことを思い出していた。一月二十七日、二十八日、広島を是非訪れたいという彼の要望で平和公園を案内し、広島市内の呉という町に昨年メリルがきたことを是非知ってほしいと、呉に来てもらったのである。その際、彼を呉の自衛隊基地へ案内したのである。彼は開口一番、「ここにいてだけでニュージーランド海軍の軍艦より多いわ!」。私は「え?」と思った。その日は五、六隻がいただけで、いつもより

少ないなと思っていたので、彼の言葉に一瞬驚いた。そして身近にある基地の大きさを、外から来た人の第一印象を通して思い知らされることのあるんだなとつくづく思った。ジュディス（フィジーの）が横須賀を見たときの感想もほとんど同様のものだった。先四に運動家たちの好奇心の旺盛さ、率直さが印象的だった。食事をどうするか一つにしても、ああでもない、こうでもないで大変な騒ぎなのだ。

一月三十一日、二月六日にかけて「海の軍備撤廃を 太平洋運動」の運営会議が東京で開かれ、私は三十一日夜入り、二月四日夕方まで丸五日間、寝食を共にして、合宿のような会議に結ばれることになった。当初は、国際シンポジウムだけ出ようと思っていたが、あにはからんや、それは付録で、運営会議の事務的な仕事も手伝うことになり、結局ずっと付き合ってしまった。日頃英語の世界と直接のかかわりをもたないため、英語同士でペラペラやられると、聞きとることだけで本当に疲れはて、議論の何割を理解できたか、全く心もとない状態だった。

横須賀を訪れ、市民グループのS氏の案内で基地を見たのが印象に残っている。ブルーリッジがあり、自衛隊もかなりいた。そこで各国の運動家たちが「すさまじい!」と感嘆の声をあげたのを聞いて、日本の軍備の大きさを改めて思い知らされた。一週間ほど前、呉の海上自衛隊基地をリニエ氏（ニュージーランド）と見たときのことを思い出していた。一月二十七日、二十八日、広島を是非訪れたいという彼の要望で平和公園を案内し、広島市内の呉という町に昨年メリルがきたことを是非知ってほしいと、呉に来てもらったのである。その際、彼を呉の自衛隊基地へ案内したのである。彼は開口一番、「ここにいてだけでニュージーランド海軍の軍艦より多いわ!」。私は「え?」と思った。その日は五、六隻がいただけで、いつもより

ともかく疲れたが、とてもいい経験だった。各国とも異なった事情の中で運動は展開している。それは当然のことだが、運動を最前線で担う活動家同士が、相互に悩みを出し合い、理解しあう。そこを出発点として、太平洋で相互に何ができるか、互いにどう協力しあえるかを、率直に、たっぷり時間をかけて議論したことは非常に大事なことであった。過去の運動で、こうした議論がもたらしてきたのかどうかは知らないが、今回の会議は、多分初めてではないにしても、相当な内容だったのではないと思う。運動のネットワークづくりという時の内実が少しずつ実現しているという実感をもつことができた。

ともかく疲れたが いい経験だった

湯浅一郎

（トマホークの配備を許すな呉市民の会）

（トマホークの配備を許すな呉市民の会）

ともかく疲れたが、とてもいい経験だった。各国とも異なった事情の中で運動は展開している。それは当然のことだが、運動を最前線で担う活動家同士が、相互に悩みを出し合い、理解しあう。そこを出発点として、太平洋で相互に何ができるか、互いにどう協力しあえるかを、率直に、たっぷり時間をかけて議論したことは非常に大事なことであった。過去の運動で、こうした議論がもたらしてきたのかどうかは知らないが、今回の会議は、多分初めてではないにしても、相当な内容だったのではないと思う。運動のネットワークづくりという時の内実が少しずつ実現しているという実感をもつことができた。



88年には

ノースウェスト・ケープ

をとりもどそう

オーストラリアPNDのリーフレットから

オーストラリア平和運動の今年の最大のテーマのひとつに、ノースウェストケープ通信基地返還運動がある。同基地はアメリカの対潜水艦通信基地で今年末で対与期限が切れる。えびのや上瀬谷の通信基地を抱える私達にとっても大いに関心のあるところである。これはPNDが同キャンペーン用に作成したリーフレットのほぼ全文である。先頃来日したピーター・ジョーンズさんが残していった。

(訳・提供 上瀬谷基地はいらないウドの会)

●ノースウェストケープ基地の何が問題か？

答えは簡単。核戦争の引金になりかねない命令が間違いなくノースウェストケープ基地を経由して伝えられるだろうから。私たちは、米国の核戦争準備の共犯者にされている。これは同時にノースウェストケープ基地が第一の攻撃目標になることを意味しているのです。おまけに、この基地は軍備管理のためには、何の役にもたっていないのです。

●ノースウェストケープ基地とは何か？

ノースウェストケープ基地は西オーストラリア、エキスマウスの近くにある米国の通信基地で南西太平洋とインド洋の原子力潜水艦や水上艦に命令を伝える役割を持っています。

●この基地の役割は？

この基地は通信衛星の地上基地からうけとった情報をVLF(超長波)やHF(短波)で送信します。VLFは潜水艦向け、HFは水上艦向けです。VLF送信施設は攻撃目標の指示をふくむメッセージや命令を潜行中の核ミサイル搭載潜水艦に伝達するために使われていました。しかし一九八二年以降はその能力は維持しているもののこの目的では使われていません。そのかわりに今では、米国の攻撃型原子力潜水艦とオーストラリア海軍の潜水艦にむけた送信を行っています。西海岸にはこれだけの周波数範囲をカバーするVLF施設はないの

です。

一方、HF送信施設は、核搭載の水上艦へのメッセージを送り出しています。これらの水上艦や原子力潜水艦はフリーマントルなど西海岸の港に入港しています。

オーストラリアもこの基地を使っています。オーストラリアはVLFチャンネルの一つを使うことを許されていますが、同盟国がより重要な目的のために使っているときには使えません。この基地の副指令官はオーストラリアの将校ですが、米国の指令官が不在のときの指揮権は彼にはありません。最も下級の米国の将校さえ彼より上の指揮権を持っているのです。

このような特権のためにオーストラリアは年間100万ドルを支出しているのです。そして、賃貸料はタダ(一)：最初に名ばかりの地代を払ったきり。賃貸料はオーストラリア政府が共同使用施設に格付けしている基地はどこでも払われていないのです。私たちは、ノースウェストケープ基地は完全にオーストラリアの管理下におかれオーストラリアの防衛のために使われるべきだと確信しています。核戦争のためなどなく。

●この基地の重要性は低下したのでは？

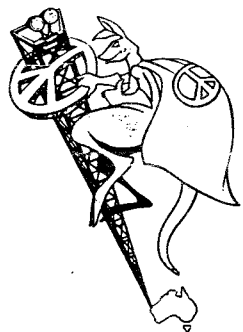
最近になってわかったことですが、ノースウェストケープ基地の役割は米国内のいくつかの基地によって引継がれたことです。しかし、役割が軽くなったからといってこの基地が必要なくなったというわけではありません。

ノースウェストケープ基地は少なくともベントゴンの戦略家たちの頭の中では限定核戦争のシナリオに組込まれています。一九八六年九月、ベントゴンのスポークスマンは、この通信施設を核戦争のときの電磁波による破壊に備えて強化する計画があることを認めました。

●私たちの選択は？

オーストラリアはノースウェストケープ基地に関して25年の貸与協定を米国との間に結んでいます。しかし、一九八七年二月三十一日の時点でオースト

TAKE
BACK THE
CAPE IN '88



Are you a Cape Crusader?

ラリアがのぞめば、百八十日の告知期間の後にはこの協定を終結あるいは変更することが出来るのです。

●ケープ・クルーセーダー(岬の十字軍)を募る！

ケープ・クルーセーダーは、西オーストラリアが第三次世界大戦のためのミサイル発射台にされることを憂える多くの人々一人一人です。何千人ものクルーセーダーが力を合せればノースウェストケープのような基地を撤去して、オーストラリアへの核艦船の入港を止めることが出来るのです。オーストラリアと核戦争の繋がりを断切る事ができるのです。

●PNDは何をしようとしているのか？

PNDはオーストラリアの人々にこの基地の役割と核艦船寄港の危険性を広く伝えるためのキャンペーンを進めています。

私達のもうひとつの課題は、連邦政府に対して、核艦船入港を拒否し、八七年二月三一日にノースウェストケープ基地貸与協定を終結するようはたらきかけることです。

●あなたに出来ること

地球大で考えよう 世界の至る所で小国に暮らす人々がより安全な世界を作り出すために熱心な努力を続けています。人々は、自分達を米ソの軍拡競争に巻込んでいる基地を撤去し、艦船の入港を食止めることによってそれを実現しようとしています。ルーミアニアの人々は、ソ連のSS20ミサイルの国内配備を拒否しました。ニュージーランドの人々は港への核艦船の入港を禁止しました。

行動は足下から *オーストラリアが核戦争準備に組込まれている実態をもっと知ろうより詳しい情報を知りたい人はPNDに連絡下さい。*友人、親戚、同僚と話合おう。軍拡競争の中のオーストラリア、そしてこの基地の役割について。*国会議員や首相に手紙を書こう。軍拡競争の中のオーストラリアに

ついてあなたが抱く不安を彼等に知らせよう。
*PNDに参加しよう。労力とお金をこのキャンペーンによせてください。

●PNDとは？

PND(核廃絶のための人々)は幅広い基盤を持った、自立的、無党派の組織です。賛同する個人、教会、商工組合、教育組織、学生、教授など様々なグループが平和と核廃絶という共通の目的で繋がって形作る連合体です。西オーストラリアでは千人以上の個人と、七十団体(千五百人以上)が参加しています。

このキャンペーンについてもっと知りたい人、PNDのメンバーになってもよいと思うひとは下の用紙で申込んでください。(つ)

会費を
よろしく。

●反トマ全国運動は皆さんからの会費とカンパだけで運営されています。会費のたまっている会員のかたはお忘れなく！そしてカンパを。よろしく願いいたします。

■編集後記

横浜では早くもソメイヨシノの開花というニュースを聞きながら「後記」を書いていきます。全国の読者の皆さんのまわりではどんなふうに春の気配が広がっているのでしょうか。気掛りなことがひとつ。ニュースがどうも首都圏に偏ってしまっています。電話取材などの形で何とかカバーしようとして努力してはいるのですがそれも限界があります。そこで毎度お願い。皆さんの周囲で起きたことがら、日々の思いや主張などなんでも結構です。編集部までお送り下さい。記事をかいてもらえなくても地方紙のスクラップなども大歓迎です。それから、きめ細かい編集のためにはもっとスタッフがが必要です。首都圏に住んでいるどなたか、この「通信」の編集を手伝っていただけないでしょうか。(た)

月刊反トマホーク通信 No. 17

一九八七年三月二〇日発行

*発行 トマホークの配備を許すな全国運動

(東京都渋谷区渋谷二一五九丸

青山五〇二 トマ喰い虫社

☎三(四九八)六〇九五

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 100円(通信会員年間2000円)